［能登半島最先端過疎地域イノベーション（石川県珠洲市）］
～真の大学連携が過疎地を変える～

課題（状況）

・市を2分して進められてきた原発誘致は平成15年度『凍結』となり、まちづくりの再構築が求められていた。
・大学も法人化が進められ、地域貢献が求められており、珠洲市内の空き校舎を活用した「大学連携事業（里山マイスター事業）」がスタートした。地域資源を活用、商品化し、雇用開発・地域活性化を図ること

目標

人口減少を食い止めること、そのための地域活性化に資する人材の育成・排出
・地域資源を利活用し、課題解決方法を企画する地域コミュニティ再生人材
・一次産品・アグリフードを発掘、ITを活用し付加価値を高める6次産業・農業IT人材
・地域のものづくり分野でマーケットイン型の思考を持つものづくりリーディング人材　など

地域資源/産学連携等

・国立大学法人金沢大学及び中村浩二金沢大学特任教授（金沢大学「里山里海プロジェクト」代表）
・珠洲市（統廃合により廃校となった小学校校舎など遊休施設を改修・提供）

政策（補助金等）/規制

【補助金】
科学技術振興機構『地域再生人材創出拠点の形成プログラム』活用（金沢大学）

具体の取組内容

①取組内容・スケジュール
・能登里山マイスター養成プログラム実施
平成18年　能登半島　里山里海自然学校
平成19年　能登里山マイスター養成プログラム
平成24年　能登里山里海マイスター育成プログラム（珠洲市資金）
平成26年　金沢大学珠洲サテライトの設置
黄砂、自動運転実証実験等先進研究の実施
②予算など
平成19年度　廃校舎改修　40,000千円
平成24年度～27年度　毎年10,000千円
③推進・運用組織
運営協議会を構成し実施―大学スタッフ、自治体、地域のステークホルダー

成功要因

・実践的なカリキュラム（講義・演習・先進地視察、ワークショップなどの工夫）
・大学、NPO、地区住民との連携による受講後の活動や就業の場の確保
・原発とは関わりない市長の誕生とリーダーシップ

成果

・修了者の定住と地域活性化への取組み
　－修了者62人のうち52人が定着
・地元若者と修了者との新たな連携とチャレンジを創出
・地域特性を活かした多様なビジネスへの挑戦
・「イフガオ棚田」など人材育成の海外への展開

地域の変化

・大学連携・共同事業により10代～20代の学生交流が定着、活気が戻りつつある
・奥能登をフィールドに自動運転の実証実験を行うなど先進的な研究の受入れている

残る課題

・里山マイスター事業をどのように地域や社会に寄与・貢献させていくかが重要
・能登里山マイスター育成事業を継続し、人材の育成・地域定着を進めていくため、その財源の確保を行っていくこと

次の行動

・新たな起業や移住、定住の促進などを進め、黄砂研究など"新しい過疎地のモデル"を構築
・金沢大学、珠洲市で重要プロジェクトと組織内で位置づけ、中長期的に持続を明確にする。民間資金導入や社団法人化などを目指す。